



# 住まいの基礎知識 ①



## リフォームの進め方とポイント

STEP 1

### 具体的な計画をたてる

- ▽  時期、期間は？
- ▽  予算は？



リフォームの目的から具体的な計画を立てましょう。この時点での情報収集も大切なポイントです。

STEP 2

### 事業者を決める～契約する

- ▽  施工業者の事業内容がリフォーム目的と合致しているか？
- ▽  実績や業務内容を吟味。信頼できる事業者か？
- ▽  候補を数社選んで同じ条件で見積書を提出してもらい検討したか？

契約前に疑問点・不安点は徹底的に確認しましょう。見積書・提案書や契約書だけでなく、打ち合わせの際の資料やメモなど書類にはしっかり目を通し、保管しておきましょう。

STEP 3

### 着工

- ▽  工事に向けての準備や近隣への周知は大丈夫か？
- ▽  工程表に基づいて進んでいるか？
- ▽  変更・追加などが発生していないか？

定期的に施工業者から報告・連絡を受けるといいでしょう。また、不安がある場合は施工業者の担当者を通じて確認するようにしましょう。



STEP 4

### 着工後

- ▽  事業者立ち会いの下、確認をし説明を受けたか？
- ▽  今後のメンテナンスや保証先を確認したか？



## 住まいの基礎知識②

### 住まいの整備に関する補助金

介護保険制度では、「要支援1~2」や「要介護1~5」と認定された方が、自宅で生活をしやすい住環境にするための手すりの取り付けや段差解消などの、住宅改修に対して費用が支給されます。また介護保険制度とは別に、高齢者向けや障がい者向けに住宅改修に助成金を支給しているところもあります。工事をお考えの際には事前に自治体に相談してみると良いでしょう。

### 業者の探し方

最近では自社ホームページを持っているリフォーム会社も多いようです。ポストに入ってくるチラシも情報収集のチャンスです。

またご近所や知り合いでリフォーム工事をした家があったら、その会社がどんな対応だったか聞いてみるのも一つの手です。



### バリアフリー住宅

バリアフリー住宅は、お年寄りや障がいを抱えている方でも住みやすい生活をおくれる住宅のことです。床の段差をなくしたり、階段に手すりを取り付けるなどいつまでも安全で暮らしやすい家で子どもから高齢のご両親まで、みんなが居心地よく住めることが重要です。



### 自然塗料

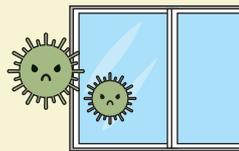
室内の床や壁、柱、家具などの木製品は、多くは何らかの塗装がされています。特に大量生産の製品はそのほとんどに化学塗料が使われています。

近年、シックハウス症候群の原因となる、化学物質による室内の空気汚染が問題視されています。お子さんやご家族がアレルギー体質なら業者にまず相談する必要があるでしょう。



### 窓周辺で起こっている問題

結露が発生する温度のことを露点温度といいます。主に冬期、窓周辺は外気に冷やされて室内の露点温度より低くなるため結露が起きやすくなります。結露は放っておくとカビやダニの温床となり、アレルギーなどの原因になるばかりか、柱や床が湿気で傷み、住宅自体に悪影響を及ぼします。また、窓周辺の冷えた空気は対流で部屋の下へ流れていき、暖房をつけていても足下はいつまでも寒く、エネルギーが無駄に使われる結果になります。

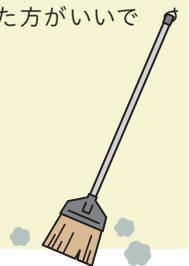


### 外構のお手入れ

塀についた泥や汚れは、乾いてからホウキで払い落しましょう。塀の傾きや亀裂などを見つけたら、早めに専門業者に相談を。放置しておくとな重大な事故に繋がることもあるので、日ごろのチェックが大切です。

門扉の汚れは雑巾などで拭きましょう。門扉は、普段から掛け金や落とし金を掛けておいた方がいいでしょう。

門扉が風にあおられたりすると、それを支える支柱や蝶番に歪み・傷みが生じてしまいます。お手入れの際には点検をしましょう。



### 自分で見つける危険な症状〈耐震チェックポイント〉

間取りや構造によって差はありますが、在来工法で建てられた住宅の代表的な例をもとに10の項目を挙げました。

- 昭和56年度以前の建物である  
現在の耐震基準を満たしていない可能性があります
- 基礎にひび割れがある
- 地盤が危険だと感じる
- 基礎が鉄筋コンクリート造ではない
- 必要な手続きを行わずに増築している

- 大きな吹き抜けがある
- 室内の床が傾いている
- 屋根には重い建材を使用している
- 過去に大きな災害に見舞われたことがある
- 壁の量が少ない  
見かけの壁の割合が少ない場合は、当然危険です

一つでも該当する項目があれば、  
専門家に相談しましょう

